

令和7年度 第75次 印旛地区教育研修会 安全教育分科会（紙上提案資料）

1. 研究主題

『学校ができる不審者への対応』

2. 主題設定の理由

四街道市立旭中学校区は、南北7km、東西4kmという四街道市の3分の1を占める広い地域である。ほとんどが田園地帯と里山であり、緑に囲まれた自然豊かな地域でもある。そのため、通学路をはじめ、学校周辺でも人目につかない場所が多く、不審者と遭遇した時に、周囲の人々に気付かれにくい場所も多々ある。また、学校現場は児童生徒だけでなく、保護者や業者の方等、様々な人々が入り出りする場所であり、来校者に不審人物が紛れ込んでいたとしても教職員が瞬時に判断し、連携して適切に対応することは難しいのが現状である。

そこで、学校ができる不審者への対応を共有し取り組むことによって、児童生徒が安心して学校生活を過ごせることを目指し、本主題を設定したものである。

3. 研究仮説

- ・近隣の学校や地域と連携し、安全対策を行えば、より効果的な不審者対応に取り組むことができるだろう。

4. 研究の内容

【不審者に対する各校の取り組み】

(旭中学校)

- ・朝の登校する生徒が集中する時間帯では、校門前に職員を配置して生徒の安全を確認している。また、生徒が登校した後は、校門を閉鎖している。来校者には、職員玄関で呼び出しベルを押してもらい、受付をした後、名札を着用してもらっている。
- ・自転車で通学する生徒が多いため、月に1度職員による下校指導集中日を設けて、交通安全指導を兼ねて学区内のパトロールを行っている。さらに、一斉下校時にも安全担当の職員を中心に、学区内の見回りを行っている。
- ・不審者対応訓練として、刺股の使い方や不審者侵入時の放送の仕方などを職員間で共有している。また、今後警察と連携し、実践を想定した訓練を実施する予定である。

(旭小学校)

- ・不審者侵入防止のために、校門、校門から校舎、校舎入口の3段階でチェック体制を構築している。校門では、指定時間以外は校門を閉鎖し防犯カメラを設置している。校門から校舎にかけては、職員室・事務室からの目視を通じて死角を排除している。校舎入口では、受付で来校者を確認し、名札の着用を義務づけている。校舎内では、職員は防犯の観点から来校者へ挨拶を行い、管理職はPHSを携帯している。
- ・不審者対応訓練を実施している。職員はベランダから児童を隣の教室へ移動、刺股の使用やバリケードの構築、廊下の施錠、状況報告を行っている。また、児童は一次避難から二次避難にかけての動きを、「いかのおすし」を確認しながら行っている。
- ・職員と地域の方の協力で行う登下校指導や子ども110番の周知、不審者情報についての保護者へのメール配信を行っている。

(山梨小学校)

- ・学区内に不審者の情報があつた場合は、学区内を見回り、メール等で注意を呼びかけている。また、地域の防犯パトロール、子ども110番の家への協力依頼などを行い、未然の防止に努めている。
- ・1階各教室の出入り口、昇降口は施錠し、来校者は昇降口での受付を行い、名札の着用を義務づけている。職員は、防犯の観点から来校者への挨拶やホイッスルの常時携帯を行っている。
- ・校外の取り組みとして、児童に対し複数での登下校や通学路を守り、下校時間などを厳守するように指導している。また、児童用の「校外不審者マニュアル」を配布し活用を促している。
- ・不審者対応訓練では、刺股の使用法や扉へのバリケード設置の仕方などを実施している。また、不審電話への対応として、職員は知らない人には住所や電話連絡などの個人情報を漏らさないこと、相手の会社名や連絡先、責任者を確認すること、電話番号を知り得た方法について聞くことを行っている。また、児童に対しては、不審電話があつた場合は、まず警察・学校に知らせるように指導している。

(吉岡小学校)

- ・下校時刻や通学路の厳守など、安全な登下校についての指導を徹底している。不審者の連絡があつた場合は、随時学区内を見回りを行い、メールなどで各家庭へ注意を呼び掛けている。
- ・不審者への対応として、地域の方々への協力を依頼し、防犯パトロールなどを実施している。学校内では、児童昇降口や1階廊下の出入口は、指定時刻以外は施錠している。各教室の東側、南側入り口は常時閉めている。担任は常時ホイッスルを携帯し、教室を空ける時は窓を閉める。担任が児童を残して教室を離れる時は、近隣の職員にそのことを伝えている。校舎内外で見かけた人には積極的に声をかけ、不審者の早期発見に努めている。
- ・不審者対応訓練では、職員は刺股やトランシーバーの使用法、個々の役割などを確認している。児童はバリケードの作り方や避難の仕方を確認している。また不審電話への対応も確認している。

(みそら小学校)

- ・物理的セキュリティとして、児童が登校した後は校門と昇降口を閉めている。
- ・不審者への対応として、来校者の受付を職員玄関とし、職員が対応できるように呼び出しベルを設置している。また、受付後は名札を着用し、職員は防犯の観点から来校者へ積極的な声掛けを行っている。
- ・不審者対応訓練では、学校内の児童と職員だけでなく、警察署と連携し、署員を講師として招いて適切な対応を学んでいる。また、地域や保護者と協力し、登下校時の見守り活動を行い、不審者情報については、メールを通じて共有している。

5. 成果と課題

【成果】

- ・各校の取り組みを共有することで、職員や児童生徒の不審者遭遇時の対応について具体的なイメージを伝えることができ、安全意識を高めることができた。また、各校の様々な取り組みを基に、今後の安全対策に反映させることができた。

【課題】

- ・不審者は一人とは限らず複数人で来る場合も考えられる。また、学校行事や授業参観で学校が解放される時など、様々な場合を想定した不審者への対応も考えていかなければならない。

【まとめ】

今回の提案を通じて、各校の不審者への対応の意識を高めることができた。今後も、各学校との情報共有や連携を図り、児童生徒が安心して学校生活を過ごせるように取り組んでいく。